

4. 事業の概要

1) 徳山ダム建設事業の変更内容

【洪水調節】

揖斐川は木曽三川の中で最も治水安全度が低く、平成14年7月洪水をはじめとして、計画高水位を越えるような出水の頻度が高いことから、揖斐川の治水安全度の向上は急務となっており、徳山ダムの洪水調節計画について横山ダムを含めて見直し、両ダムの洪水調節機能の向上を図る。

(変更内容)

- ・洪水調節容量 : 100,000千 m^3 → 123,000千 m^3
- ・洪水調節方式 : 200 m^3/s 一定量放流方式
→ 流入量200 m^3/s 以上全量カット

【流水の正常な機能の維持】

揖斐川の既得用水が安定的に取水できるように、また河川環境の維持、保全を図るため、不特定容量を増量する。

また洪水調節計画の変更により、横山ダムのかんがい用途を洪水調節用途に振り替えるため、横山ダムのかんがい用途を徳山ダムに振り替える。

(変更内容)

- ・不特定容量 : 58,000千 m^3 → 115,000千 m^3
(横山ダムかんがい用途振替分32,000千 m^3 含む)
- ・基準地点万石の流量 : ダム基準年で約17 m^3/s
→ 近年の2/20渇水年で約20 m^3/s

【異常渇水時における緊急水の補給】

変更なし

【新規利水】

関係県市において、木曽川水系水資源開発基本計画の全部変更に向けて、将来の水需給の見通しについて検討を行った結果、12.0 m^3/s から6.6 m^3/s に減量されることとなった。

(変更内容)

- ・新規利水量 : 12.0 m^3/s → 6.6 m^3/s
- ・新規利水容量 : 129,000千 m^3 → 78,000千 m^3

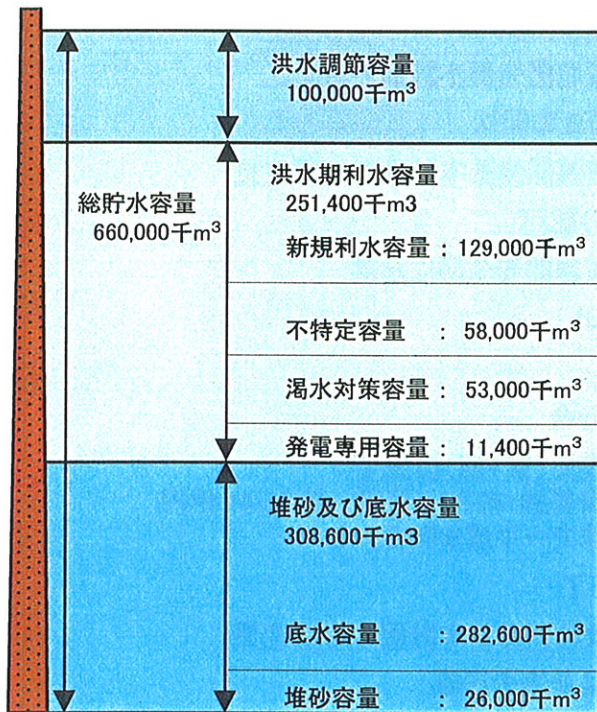
【発電】

底水容量の減量に伴う発電計画の見直しを検討中である。

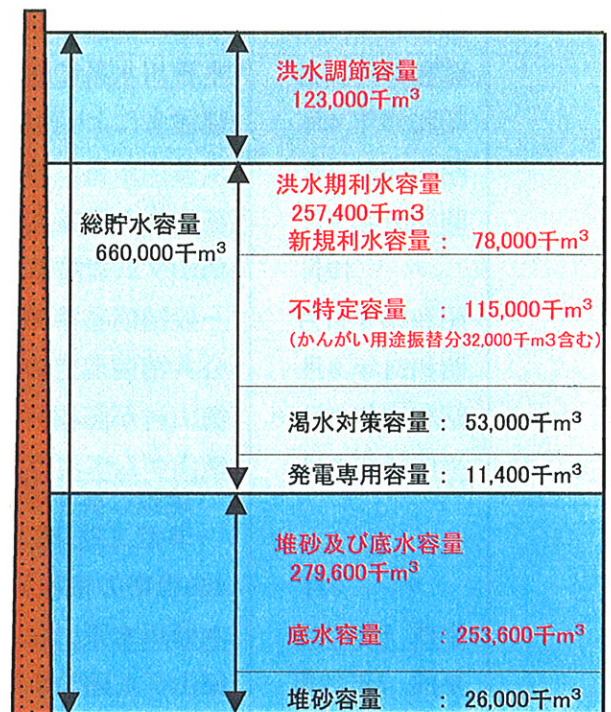
(参考:従来計画)

- ・最大出力 : 徳山発電所40万kw、杉原発電所2.4万kw

従来計画



新計画



※朱書きは今回変更となった値

貯水池容量配分図(洪水期)

2) 諸元等(徳山ダム建設事業)

【ダム】

形式 : 中央遮水壁型ロックフィルダム
堤高 : 161.0m
堤頂高 : 415.0m
堤頂標高 : 406.0m
堤体積 : 約13,900,000m³

【貯水池】

集水面積 : 約254.5km²
洪水時満水位 : 標高401.0m
常時満水位 : 標高400.0m (標高400.0m)
洪水期制限水位 : 標高391.0m (標高393.0m)
最低水位 : 標高363.5m (標高367.5m)
総貯水容量 : 約660,000,000m³
有効貯水容量 : 約380,400,000m³ (約351,400,000m³)

【総事業費】

約3,500億円 (約2,540億円)

【工期】

平成19年度

※朱書きは今回変更となった値

※カッコ書きは従来計画時の値

3) 徳山ダム建設事業の経緯

月日	経緯
昭和40年 4月	木曾川水系工事実施基本計画決定
昭和43年10月	木曾川水系における水資源開発基本計画の決定
昭和46年 4月	建設省により実施計画調査の開始
昭和48年 3月	木曾川水系における水資源開発基本計画の全部変更
昭和51年 9月	徳山ダム事業実施計画の認可
〃 10月	徳山ダム建設事業を水資源開発公団に承継
昭和58年11月	一般補償基準の妥結調印
昭和61年 3月	公共補償協定の締結
昭和62年 4月	徳山村が藤橋村に廃置分合
平成元年 2月	徳山ダム事業実施計画変更(第1回)の認可 ・建設に要する費用の概算額: 約330億円→約2540億円 ・予定工期: 昭和57年まで→平成9年度まで
〃 3月	466世帯の移転契約の完了
平成 5年 3月	木曾川水系における水資源開発基本計画の全部変更
平成 7年12月	徳山ダム建設事業審議委員会の設置
平成 9年 2月	徳山ダム建設事業審議委員会の意見まとまる (徳山ダムは治水・利水の緊急性、重要性からみて早期に完成させるべきである)
平成10年 6月	徳山ダム事業実施計画変更(第2回)の認可 ・名古屋市上水の取水量: 5.0m ³ /s→2.0m ³ /s ・渇水対策容量: 約53,000千m ³ 確保 ・予定工期: 平成9年度まで→平成19年度まで ・費用負担割合の変更
〃 12月	土地収用法に基づく事業認定告示
平成11年 3月	「徳山ダム事業認定取消請求事件」提訴(被告: 建設大臣) (H13.7までに15回の口頭弁論開かれる)
〃 11月	転 流
平成12年 3月	堤体工事に着手
平成13年 7～10月	中部地方整備局事業評価監視委員会で事業再評価審議 (「徳山ダム建設事業の継続」了承)
平成15年 7月	木曾川水系における水資源開発基本計画の全部変更の見直し着手 (「水資源開発分科会第1回木曾川部会」開催)
〃 8月	徳山ダム変更事業費が1,010億円増となる旨公表
〃 10月	平成15年度第2回事業評価監視委員会で徳山ダム変更事業費説明
〃 11月	平成15年度第3回事業評価監視委員会で再説明 (徳山ダム変更事業費(960億円増)了承)
〃 12月	平成15年度第4回事業評価監視委員会で山林公有地化等補足説明
〃 12月	「徳山ダム事業認定取消請求事件」第1審判決
平成16年 4月	「水資源開発分科会第2回木曾川部会」開催
〃	「徳山ダムに関する調整会議」開催

4)横山ダム再開発事業の変更内容

揖斐川は木曾三川の中で最も治水安全度が低く、平成14年7月洪水をはじめとして、計画高水位を越えるような出水の頻度が高いことから、揖斐川の治水安全度の向上は急務となっており、横山ダムの洪水調節計画について徳山ダムを含めて見直し、両ダムの洪水調節機能の向上を図る。

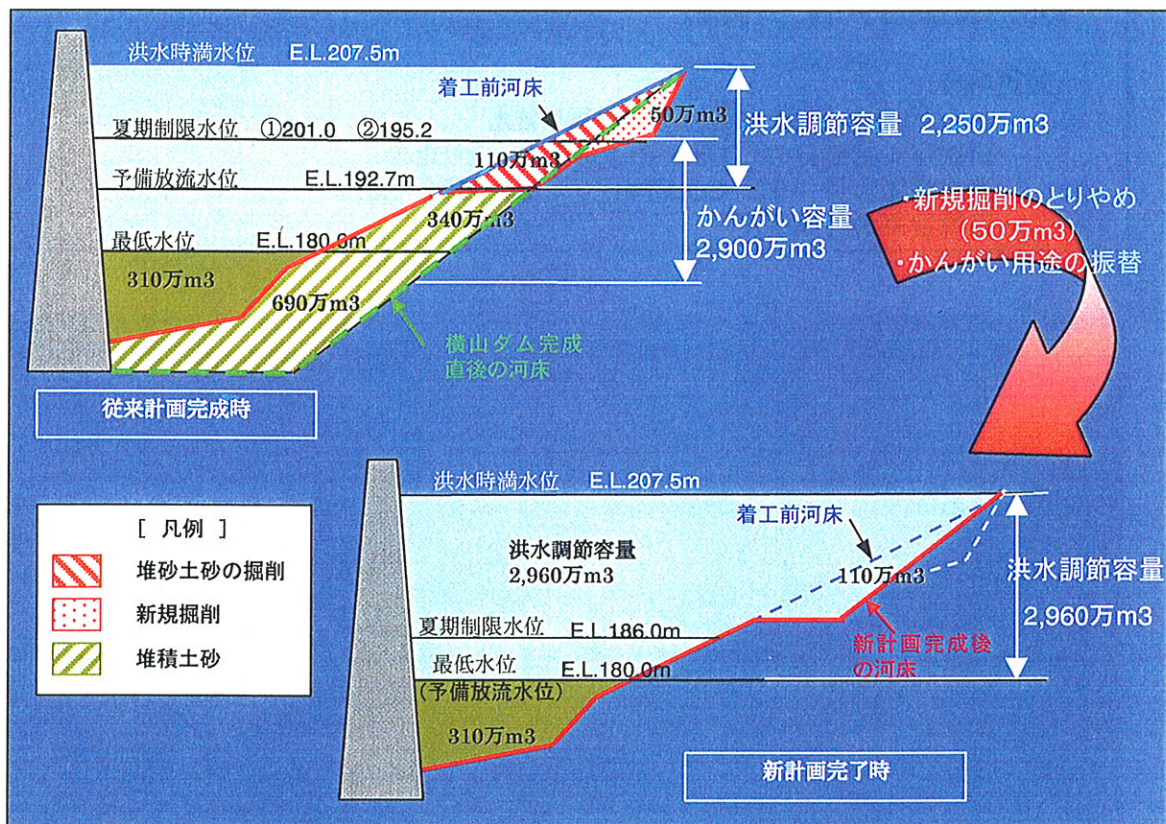
(変更内容)

- ・かんがい用途を洪水調節用途に振り替え
- ・新規容量相当分の50万 m^3 の土砂掘削をとり止め
- ・洪水調節容量 : 22, 500千 m^3 → 29, 600千 m^3
- ・発電運用の計画変更



横山ダム

新計画は、従来計画に対し、かんがい用途を徳山ダムへ振り替えるとともに、新規掘削をとり止める。また容量確保のための掘削(110万 m^3)は、従来どおり実施する。それにより洪水調節容量を2,250千 m^3 から2,960千 m^3 に増強する。



5) 諸元等(横山ダム再開発事業)

【ダム】

形式 : 中空重力式コンクリートダム
 ダム高 : 80.8m
 堤頂長 : 220.0m
 堤頂標高: 209.5m
 堤体積 : 約319,800 m^3

【貯水池】

集水面積: 約471 km^2 うち、横山ダム単独集水域 約217 km^2
 洪水時満水位: 207.5m
 夏期制限水位: 186.0m (一次201.0m、二次195.2m)
 最低水位 : 180.0m
 総貯水容量 : 約32,700,000 m^3 (43,500,000 m^3)
 有効貯水容量: 約29,600,000 m^3 (33,500,000 m^3)
 洪水調節容量: 約29,600,000 m^3 (22,500,000 m^3)

【総事業費】

約360億円 (約370億円) ▲10億円

【工期】

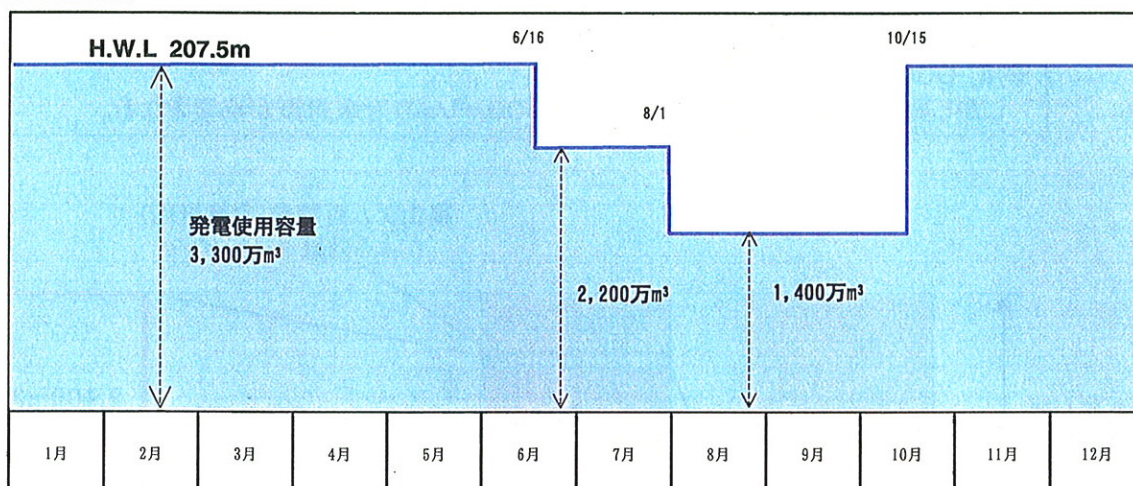
平成22年度

※朱書きは今回変更となった値
 ※カッコ書きは従来計画時の値

6) 横山ダム再開発事業の貯水池運用計画について

新計画では洪水期におけるかんがい用途の振り替えに伴うダム水位の運用変更により、貯水池の運用計画が変更になる。

従来計画



新計画

